

FEH

生活ビジネス

イーアイ（東京都文京区）は人工的に合成した音声を使い、さまざまな文章を顧客の好みの声に自動変換して読み上げるサービスを展開している。音声の素材には実際の人の声を活用。自然で聞き取りやすいと評判を呼び、スマートフォンのアプリやロボット、地方自治体の防災放送といった幅広い分野で利用されている。

企業をはじめとした顧客は、男性や女性、子供などタイプが異なる15種類の既製の声から選べるほか、自分や著名人、声優らの声を収録してオリジナルの音声を作成することも可能だ。

高品質の音声合成サービス提供



イーアイの音声合成サービスで、声をスタジオで収録する女性



「より便利に使えるように、音声合成システムの改良を続けたい」と話す吉田大介社長

スタジオなどで決まった文章を読んでもらい、声を録音。声質や抑揚を細かく解析してデータベース化することで、文章を入力すれば収録した人物に近い

話し方の音声に自動変換できる。吉田大介社長は研究機関に勤めていた際、音声合成を利用した文章の読み上げ技術に出合

い、2003年に会社を設立した。しかし「当初は読み上げ方がスムーズではなく、利用は広がらなかった」。新たなシステム開発や音質な

どの改良を繰り返した結果、5年ほど前から注文が増えてきた。特に音声で受け答えや操作ができるスマホの普及や、スマホ向けのゲームアプリなど音声を使うサービスが広がっていることで需要が拡大しているという。

ソフトバンクの人型ロボット「Pepper（ペッパー）」の音声にも採用。東日本大震災を機に重要性が見直されている防災放送でも「人が直接読み上げるよりも、落ち着いた聞き取りやすい」と好評で、採用する自治体が増えている。

英語など14の外国語にも対応している。訪日観光客の増加や東京五輪開催で需要増が見込まれることから、来年3月までに36カ国語まで対象を広げる方針という。